



Bring up

ぶりんぐあっぷ
ちば子ども発達センター

小山 恵美子

統廃合により廃校となった小学校の跡地を
複合施設として、再利用 平成29年開所

子どもたちや保護者が通いやすく、安心できる
居場所となるよう、千葉市によるリノベー
ションと、特定非営利活動法人EPOによるリ
フォームが行われた。

【児童発達支援センター】(30名/1日)

【放課後等デイサービス事業】(20名/1日)

【保育所等訪問支援事業】

令和3年11月30日現在利用契約数:170名

訪問支援・関係機関連携先実績:幼稚園25園(認定こども園含む)、
保育所10園、小学校7校



支援内容ご紹介①

ちば子ども発達センターの発達支援

運動遊びによる『楽しさ体験』の安定的な保障。お子様に負担の少ない形で、コンプライアンス・合意形成の確立を目指す。

未就園児

どんぐり (6名/1日)

10:00～11:30

●初めての集団。先生やお友達と楽しく過ごす(母子通

園あり)

●遊具や玩具の使い方を先生やお母さんと一緒にゆっくりと練習

●模倣遊び

●感触遊び

●ふれあい遊び

毎日通園

さくら組 (10名/1日)

9:30～13:30

●幼稚園・保育園に代わる場として、行事を実施(入卒園式、遠足、お泊り会等)

●送迎の実施

●手作り給食の提供・食事指導

●発達段階に沿った個別指導を実施

●月一回保護者会(さくらミーティング)を実施

併用通園(年少中)

ほし組 (7名/1日)

9:45～11:15

●基本的生活習慣の確立のために、発達特性を考慮したスモールステップの支援(ライフスキル)

●運動機能促進

●コミュニケーションの促進。遊びや楽しみのバリエーションを増やし、やりとりにつなげる。

就学準備(年長)

にじ組 (7名/1日)

14:30～16:00

●就学を見据え、一年をかけてゆっくりと準備。

●集団遊びを通し、ルール理解・状況判断・具体的なコミュニケーションスキルの獲得を目指す。

●書字・読字を発達段階に合わせ練習。

小学生

こころみ (20名/1日)

15:00～17:00

●小学校入学後のフォローアップ

●良好なコミュニケーション手法をお子様の特性に合わせてアドバイス

●目的別活動

●体験活動

サマーキャンプ

宿泊体験

各種行事

●学習支援・個別支援

支援内容ご紹介②

家族支援 地域支援

『お話会』『就学相談』

教育センターとの連携・先輩ママからの体験談も交え、お母さんたちへ安心を。

タッチセラピー講習も実施。

『ぱぱの会』

お父さんたちの生の声を引き出す。「俺とおんなじ悩みの人！！」「こういうの待ってました！」の声パパとのじゃれつき遊び体験。

『ぺあすくプロジェクト』

家庭内療育の基礎を学ぶ。応用行動分析ABA初級セラピストが実施し、お子様の成長発達を個別指導により促進。

保護者へのレクチャー。保護者による実践を誘導する。

小学生及び 卒後の支援

継続相談 B-club

サマーキャンプ実施

卒後同窓会

各種研修・講演実施

小児医療の現場から(講演会) 教育機関・支援機関向け講演会

感覚統合・入門基礎研修・J-map講習会

ABA千葉地域研修会

保育所等訪問支援

ぶりんぐあっぷが大切にしている視点と手法

『できないことを子どものせいにしない』 という考え方



■感覚統合の視点でお子様の心身の発達状況と特性を理解します。

■応用行動分析(ABA)の理論に基づき、負担の少ない手法を用いて、お子様の発達レベルの底上げを目指します。

合意形成の確立を、早期に負担少なく実施するには、有効な手法であると考えています。

保護者からの声②

よかったこと

- ◎ 会話がふえた → 色々な感情共有.
- 承認欲求が強くなった
→ ほめられたい. 

役に立ったこと

- ◎ 友達のお母さんから「誰にも心を
ひらこうとしない子の扱いが上手い」と
いわれた。役に立てた (ABA使)

子供の変化

表小青がとっても豊かになっ
た。かわいいと思える。

家族の変化

生まれてきてくれてありがとう
ママの子でありがとうと
いから言えた (最近). 

その他

其月待をかけあぎないことを
気をつけている。



エビデンスに基づく親子への支援を通して

地域でつながっていくための実践と課題

① 地域からの要請にこたえる

～事例から考察～

② 地域へ『効果』を届ける

～変化を共に体験できる仕組みづくり～

ある幼稚園の事例

- 園では嫌がっておむつを替えることができない
- 家庭では可能
- 一度も変えずにひどく濡れた状態で帰宅する
- 激しく抵抗する・拒否をする
- 言うことを聞いてくれないので、
替えない

訪問

- 行動をモニター。遊びに熱中していると指示が通りにくい。**熱中するものがある。**
- 遊んでいるブロック(使っているものより少しだけ**クオリティーの高いもの**)を一つ拝借。
- 見せながら、おむつ片手に『いこ』と誘導。
- そのまま廊下でおむつ替え。『嬉しいね』『いい子だね』『上手ね』。
- 取り替え後盛大に褒めながら即ブロックを渡した。
- **驚いた先生は翌日から真似て実施。その後安定。担当者会議に参加するようになった。**

リステックス実装3年間を振り返り、『地域で活かす』を考える・・・

- 早期発見・早期療育の意義を地域に伝えていくには、地域へ赴くこと、地域への発信力・連携力が必要。
- 結果を示すことにより関心を向けてもらう。仲間を増やす。(地域へプレゼンテーション・双方向のフィードバック体制の構築)
- エビデンスに基づく支援の積み上げ。データの蓄積による説得力。
- 一方で、現行制度(児童発達支援・放課後等デイサービス)において、ペアスくのような親子共学の個別指導にかかる人的整備には、相応の工夫と機関としての体力が必要。熱意だけでは続かない。
- 早期療育におけるペアレントトレーニングの要素は、発達支援において重要な意味を持つことを実証し、機関において実施されるご家族への学びの提供が、家庭連携加算のような形態で算定されるシステムの構築に今後とも寄与したい。

地域のキーマンとのつながりを作るために、今行っていること

➤ 相談支援専門員とのつながり

モニタリングの対応を丁寧。専門員が訪問しやすい雰囲気づくり。
個別支援計画書と障害児支援利用計画書のやり取りを丁寧。

➤ 行政・子ども家庭課・健康課担当保健師とのつながり

密な電話連絡。福祉サービスへ上手くつながれない方へのナビゲートを行政とともに行う。地域の会議や研修にはこまめに参加する。

➤ 幼稚園・保育所・小学校(教育委員会)の先生方とのつながり

運動会・発表会・公開参観にも赴く。同じ支援者として共通項を見つけながら、
支え、支えられる。労いとリスペクト。